

## 日本語と中国語字幕に見られるヘッジ表現 —ポライトネスの観点から—

袁 青

(東北大学国際文化研究科博士後期課程)

### Abstract

*This paper aims to explain how hedges in Japanese are translated into Chinese in subtitling. Hedges usually are used in dialogues as a strategy to avoid potential threats to cooperative interaction and to keep harmonious communication. This study collected 163 sentences with typical hedges from Japanese drama scripts and compared differences between original lines and their corresponding Chinese subtitles from the viewpoint of politeness. Result shows, only 104 sentences (63.80%) with hedges are translated as they are, and 36.20% of collected data are translated without hedges. This suggests that target text politeness phenomena are different from those in source texts.*

### 1. はじめに

我々の日常生活において、(1)の発話のように断定を避け、聞き手への負担を減らす気持ちを表す表現がよく見られる。

- (1) 
$$I \left\{ \begin{array}{l} \text{think...} \\ \text{believe...} \\ \text{assume...} \end{array} \right\} \quad \text{私は…だと思う。}$$

(B&L : 164、田中 (監訳) 2011: 228)

このような発話行為遂行の度合いと発話内効力を調整する機能を持つ表現を「ヘッジ (hedge)」と呼ぶ。聞き手の気持ちに配慮したうえで、自分の考えをはっきりと伝達するのが困難である場合や、はっきりと自分の考えを表す必要がない場合に多々使用されている。そうすると、相手のメンツ (face) に気を配って、円滑なコミュニケーションを維持させる役目を果たすことができる。このような聞き手に対する配慮を、ポライトネスという。本稿は Brown & Levinson (1987) (以下 B&L) のポライトネス理論に基づいて、日本語のヘッジの配慮が、中国語字幕でどのように表現されるのかを明らかにすることを目的とする。

### 2. ポライトネス及びヘッジ

## 2.1 B&L のポライトネス理論

ポライトネスとは、話し手の言葉が聞き手の気持ちを損害することを避けられないときに、相手に配慮したストラテジーの使用を通じて、攻撃性を和らげ、スムーズに意図を伝えるようにすることである。例文 (2) では、話し手は括弧内の行為を望んでいるが、相手の気持ちを傷つける可能性に配慮し、依頼を間接的にすることで、円滑な人間関係を維持しようとしている。

### (2) It's cold in here. (c.i. Shut the window) (B&L: 215)

B&L のポライトネス理論の中心となるのは、フェイス (face) の概念である。フェイスは「すべての構成員が自分のために要求したいと願う公的な自己イメージ the public self-image that every member wants to claim for himself」と定義され、二つの側面を持つ。ひとつは「自分の領域・自由を侵害されたくない」というネガティブ・フェイス (negative face) であり、もう一つは「他者に賞賛されたい、仲間に入れてほしい」というポジティブ・フェイス (positive face) である。フェイスを脅かす行為 (Face Threatening Acts、以下 FTA) を行わざるを得ない場合、以下の五つのポライトネス・ストラテジーが適用される。補償行為をせず、あからさまに FTA を行うボールド・オン・レコード (bald on record、以下 BoR)、聞き手のポジティブ・フェイスに配慮するポジティブ・ポライトネス・ストラテジー (positive politeness strategy、以下 PPS)、聞き手のネガティブ・フェイスに配慮するネガティブ・ポライトネス・ストラテジー (negative politeness strategy、以下 NPS)、FTA を間接的に行うオフ・レコード (off record、以下 Off-R)、そして FTA を行わないストラテジーである。

どのストラテジーを用いるのかは FTA の「重さ」(Weightiness) によって決まる。この重さは話し手と聞き手間の社会的距離 (Distance, D)、聞き手が話し手に及ぼす力 (Power, P)、当該文化における FTA の負担度 (Rank of imposition, Rx) によって算出される。

$$W_x = D(S,H) + P(H,S) + R_x \quad (\text{B\&L: 76})$$

どのストラテジーを用いるかは FTA の侵害度すなわち  $W_x$  によって決まる。 $W_x$  が小さければ小さいほどフェイスに配慮する必要が無く、BoR を使用することができ、逆に値が大きければ FTA を行わないか、Off-R が選択される。PPS は  $W_x$  が比較的小さいとき、NPS は比較的大きいときに選ばれる。

## 2.2 ヘッジ(Hedge)

B&L によると、ヘッジ (hedge) とは、「述部や名詞句が表すそのものらしさの度合いを修正するような、小辞、語、慣用句 (“hedge” is a particle, word or phrase that modifies the degree of membership of a predicate or a noun phrase in a set)」

(B&L : 145、田中 (監訳) 2011: 199) であり、発話行為遂行の度合いと発語内効力を調整することを通して、発話態度を緩和することに役に立ち、FTA を緩和するための一番手近なツールであると言える。B&Lは Grice(1967)の四つの Maxim、すなわち、「質 (発話が真実であること)」「量 (発話が必要以上でも以下でもないこと)」「関係 (発話が文脈に関連する内容であること)」「様式 (順序よく整理された発話であること)」のそれぞれに関わるヘッジがあるといい、ヘッジを四種類に分けている。

- a. 質の「行動指針に対する」ヘッジ
- b. 量の「行動指針に対する」ヘッジ
- c. 関係の「行動指針に対する」ヘッジ
- d. 様式の「行動指針に対する」ヘッジ

なお、B&L が述べているように、ヘッジは必ずしもポライトネスのためだけに使用されるわけではなく、様々な機能を持つ。つまり、NPS だけではなく PPS としても用いられることがある。さらに、日本語の台詞では見られる関係の「行動指針に対する」ヘッジがごく少ないので、本稿では、特に c タイプを除き、NPS としてのヘッジに重点を置いて考察を行う。

### 3. 研究方法

本稿では、日本のドラマ『ナオミとカナコ』<sup>1</sup>、『お義父さんと呼ばせて』<sup>2</sup>、『戦う！書店ガール』<sup>3</sup>、『結婚しない』<sup>4</sup>および『家族ノカタチ』<sup>5</sup>を研究資料として、FTA 場面で現れる NPS に向けられるヘッジを持つ用例 163 例を収集した。これらに対応するファンによるウェブ上の非公式の中国語字幕 (いわゆるファンサブ) の訳文と比較することによって、ヘッジの翻訳特徴を考察する。ファンサブを選んだ理由は以下のとおりである。日本のドラマは中国でテレビ放送されることはほとんどない。一部の作品には公式字幕は存在するとは言え、公式に公開された映画やドラマなどは審査によって不適切なシーンや発言を削除されることがあるため、公式字幕の忠実度が下がっていることが多い。それに対して、ファンサブは外部審査を受けないから、一切の削除なしですべてのシーンが見られ、オリジナルに対する忠誠度が高い。字幕のポライトネス表現は、ファンサブのレベルによっても影響を受ける。本稿では、人々からの評価が高い「人人字幕」というファンサブから、データを収集して考察する。なお、上記のドラマを選んだのは、第一に日常的な会話であること、第二に様々な人間関係が見られると同時に、力関係が明らかであること、第三に登場人物がぶつかり合うプロットが豊富だからである。

例文を挙げる際に、まず台詞の場面を説明し、話し手と聞き手の間の距離および関係を示したうえで、日本語の台詞と中国語字幕の訳文を提示する。中国語字幕には筆者による

日本語の直訳を付加する。日本語の台詞は「 」、中国語字幕は“ ”で囲んだうえで、中国語字幕の直訳日本語は（ ）でくる。最後にそれぞれの例文の出典を、発話が現れる時間とともに記す。

- ・「原文」：日本語の台詞。
- ・「訳文」：中国語の字幕。
- ・「話し手」：台詞を言っている登場人物。
- ・「聞き手」：その台詞が向けられている登場人物。
- ・P：会話参加者の力。話し手の力はPs、聞き手の力はPhと表記する。
- ・“>”“<”“=”：話し手と聞き手の力関係を示す。
- ・D：話し手と聞き手間の社会的・心理的距離。“大”“中”“小”によって親疎を表す。

#### 4. 日中字幕翻訳におけるNPSに向けられるヘッジの表現

本章では、日本語の台詞に見られるそれぞれのNPSに向けられるヘッジの表現とその対応する中国語字幕を見ていく。4.1節では質の「行動指針に対する」ヘッジを、4.2節では量の「行動指針に対する」ヘッジを、4.3節では様式の「行動指針に対する」ヘッジを考察する。

##### 4.1 質の「行動指針に対する」ヘッジ

B&Lは、質の「行動指針に対する」ヘッジは、「話し手が自分の発話の真実性について完全な責任を負わないことを示唆するものである」（B&L：164、田中（監訳）2011：228）と定義する。日本語の台詞では、典型的な質の「行動指針に対する」ヘッジは「と思う」と「とか」を全部で36例収集した。4.1.1項では「と思う」「かなと思う」を含む文を、4.1.2項では「とか」を伴う文を考察する。

##### 4.1.1 「と思う」「かなと思う」

横田（1998：105）によれば、「と思う」は「意見や主張が個人的なものであることを明示し、それによって意見や主張を和らげて表現する機能」を果たしている。また、鈴木（2015：70）は「かなと思う」が意見表明・コメントの場合に使われ、「聞き手との対立・コンフリクトの生じる可能性を避ける」機能を持つとする。どちらも、相手に踏み込まれたくないというネガティブ・フェイスに配慮したNPSである。

まず、「と思う」に対応する訳語がない字幕から見ていこう。

(3)の忠告という発話行為は相手のネガティブ・フェイスに対するFTAであるから、「と思う」で、押しつけの度合いを和らげている。しかし訳文では、「と思う」表現が訳出されず、話し手がBoRで、そのまま自分の意見を伝えることに

なっている。

(3) 春子が千春に忠告をする (Ps>Ph, D 小)

原文：「寂しさから 昔の約束にすぎるのはやめたほうがいいと思う。」

訳文：“劝你不要因为寂寞就依靠以前的约定。”

(寂しいから昔の約束にすぎるのはやめるよう勧める)

(『結婚しない』第1話 36:12)

(4) は、話し手が聞き手に仕事を頼む会話場面である。原文は、話し手がヘッジの「と思っています」によって、依頼を間接的にし、聞き手のネガティブ・フェイスへの配慮を表す。しかし訳文には「と思う」に対応する表現がなく、依頼は直接的な BoR である。

(4) 直美と加奈子は達郎に似ている男に仕事を依頼する (Ps=Ph, D 大)

原文：「私たちは あなたに仕事を頼みたいと思っています。」

訳文：“我们有工作想要拜托你。”

(私たちは あなたに頼みたい仕事がある。)

(『ナオミとカナコ』第1話 04:26)

(5) は、こどもの日のイベントについて、アイデアを募っているシーンである。原文では、話し手がヘッジの「と思う」を言いさしにして、提案の発話行為をさらに間接的にしている。訳文でも語気を和らげる機能がある“吧”が NPS として機能しているが、FTA が緩和される度合いは原文に比べるとわずかである。

(5) 理子は店員たちにアイデアを出すようにいう (Ps>Ph, D 中)

原文：「それもいいと思うんですが せっかくだから いろいろ考えられたらいいなと思っています。」

訳文：“我觉得这个也不错，难得的机会，还是多想点应对方案吧。”

(それはいいと思う。せっかくだから 対策案をもっと考える+“吧”)

(『戦う！書店ガール』第4話 8:50)

一方、原文の「と思う」が中国語の“我觉得”で訳出される例も少なくない。

(6) では、自分の両親にもう一度会いたいという依頼を断る場面である。話し手は「今はまだ会わない方がいい」という意見を、「と思う」で間接的に伝えている。訳文でも、「と思う」に対応する“我觉得”が使用されている。

- (6) 大道寺に美蘭の両親にもう一度会いたいと言われて、断る (Ps=Ph, D 小)

原文：「それは 一拍置いたほうが良いと思うな。」

訳文：“我觉得最好还是不要急于一时。”

(しばらくあせらないほうが良いと思う。)

(『お義父さんと呼ばせて』第2話 08:21)

(7) では、聞き手と付き合っている男が既婚者であるということを知り、話し手がその男と別れるように説得するシーンである。原文でも字幕でも、「と思う」「我觉得」を使用して、説得の発話行為を緩和している。

- (7) 大道寺は美蘭の妹を説得する (Ps>Ph, D 中)

原文：「ここは一旦 距離を置いてさ どういうつもりなのか 確認したほうが良いと思うんだよね。」

訳文：“我觉得你应该跟他保持距离，再好好摸清楚他的心思比较好。”

(距離を置いて 彼の腹のうちを探ったほうが良いと思う。)

(『お義父さんと呼ばせて』第7話 25:07)

(8) も同様に「と思う」「我觉得」で忠告の発話行為を緩和している。

- (8) 春子は千春に忠告をする (Ps>Ph, D 小)

原文：「変に期待しないほうが良いと思うな。」

訳文：“我觉得你还是不要做无所谓的期待。”

(むなしい期待はやめた方が良いと思う。)

(『結婚しない』第1話 35:50)

以上のように、「と思う」を訳さず、代わりに語気助詞(“吧”など)で発話行為を軽く緩和する場合もあれば、対応する“我觉得”で訳出される場合も多い。ではその違いは何であろうか。下の表1を見ると、FTAの値が訳出の有無に影響を及ぼすことが分かった。

「訳さない」という発話行為を見ると、そのほとんどが自分の希望を述べる「たいと思う」で、(5)の部下への提案のような発話行為が若干見られただけである。「たいと思う」については、中国語で希望を表す“想”や“希望”が“我觉得”と共起できないという事情が大きい。その一方で、話し手が聞き手より力が強い場合では訳出されない傾向がある

訳出される場合の発話行為を見ると、社会的な距離が小さくなると、つまり親疎関係が親しい方に動くほど、「と思う」が訳出される可能性が高くなる一方、力関係の側面から見ると、「と思う」は話し手が聞き手よりも力が弱い場合に訳され

やすい。さらに、説得や忠告の場面では、「と思う」が訳出されることが多い。これでは相手のネガティブ・フェイスに対する FTA であるというだけでなく、聞き手の現状を否定するような、ポジティブ・フェイスに対する FTA でもある。このような場合には、中国語でも“我觉得”で FTA を緩和する必要があると考えられる。

	D 大	D 中	D 小	合計
訳出される場合	0(0%)	9(60.0%)	6(66.7%)	15
訳出されない場合	4(100.0%)	6(40.0%)	3(33.3%)	13
合計	4(100.0%)	15(100.0%)	9(100.0%)	28

	Ps>Ph	Ps=Ph	Ps<Ph	合計
訳出される場合	1(12.5%)	9 (64.3%)	5(83.3%)	15
訳出されない場合	7(87.5%)	5(35.7%)	1(16.7%)	13
合計	8(100.0%)	14(100.0%)	6(100.0%)	28

表 1 中国語字幕における「と思う」訳出の有無

#### 4.1.2 「とか」

「とか」の機能に関して、辻 (1999: 21) は、「相手と正面から向き合って衝突することを避け、相手を傷つけない・相手に傷つけられないように距離を置いた人間関係を志向する心理のあらわれ」と述べている。また、劉 (2011) は、「断定回避」および「直示軽減」などの用法に当たり、直示することを避け、発話を緩和することで、円滑な会話を促進させる役に立つぼかし表現であるという。このような機能は、果たして中国語字幕にどのように現れているであろうか。

まず、「とか」に対応する訳語がない字幕から見ていこう。

(9) では、「とか」の使用により、「必ずしも甘いものでなくてもよい」と伝え、相手の負担を下げることにより、依頼の度合いを緩和している。ところが、訳文では、話し手ははっきり自分の希望を述べており、FTA の度合いが原文より強い。

(9) 理子は部下を見舞い、食べたい物がないか尋ねる。(Ps (B)<Ph (A), D 中)

原文：A「何か食べたいものがある？」

B「そうですね。何か甘いものとか。」

訳文：“这个嘛，想吃甜食。”

(これだね、甘いものを食べたい。)

(『戦う！書店ガール』第4話 2:50)

(10) は、常連客の依頼に対して、その理由を推測する場面である。原文では、話し手が聞き手のネガティブ・フェイス（プライベートな気持ち）に配慮し、「とか」によって断定を回避することで、FTA の度合いを和らげている。訳文では、はっきりと質問する形になっており、FTA の度合いは原文より強くなってしまふ。

(10) 買った花を見えないように包装してほしいという客の依頼に (Ps<Ph, D 大)

原文：「あとう 差し出がましいようですが もしかして 花束を持つのが恥ずかしいとか？」

訳文：“那个恕我多言，难道您是觉得拿着花不好意思吗？”

（あとう、余計なことを言って申し訳ありませんが、まさか花束を持つのが恥ずかしいのですか？）

（『結婚しない』第4話 14:42）

一方、「とか」が中国語の“什么的”で訳出される例も1例だけ見つかった。

(11) では、「とか」を二回使用することによって、限定を避け、ほかの選択肢があることを仄めかすことで、聞き手のネガティブ・フェイスへの配慮をし、主張の度合いを和らげている。訳文では、FTA を弱める機能を持つ語気助詞“吧”と、「とか」に対応する“什么的”が使用され、「まだはっきり決めておらず、あなたの意見も聞きたい」というような話し手の気持ちが伝達される。

(11) 美蘭が大道寺に週末の予定を提案する。(Ps=Ph, D 小)

原文：「たまにはさ 車借りて ドライブとか行かない。日帰り温泉とか。」

訳文：“偶尔借个车去兜风吧。当天来回的温泉游什么的。”

（たまには車を借りてドライブに行く＋“吧”。日帰り温泉とか。）

（『お義父さんと呼ばせて』第3話 03:39）

以上のように、中国語の字幕では日本語の台詞に現れる「とか」はほとんど訳出されず、FTA の度合いが強くなる場合が多い。

#### 4.2 量の「行動指針に対する」ヘッジ

次に、日本語で頻繁に用いられる「ちょっと」「一つだけ」「少し」「単なる・ただ」などのヘッジ（120例）を考察する。これらのヘッジは、「その情報が期待されているかもしれない量には満たなかったり合わなかったりすることに注意を促す（...give notice that not as much or not as precise information is provided as might be expected）」（B&L:166、田中（監訳）2011:231）量のヘッジで、不平や依頼を和らげる役目を果たす。その中でも、特に「ちょっと」の用例が最も多い（81例）。

## 4.2.1 「ちょっと」

木村（1987）は、日本語の「ちょっと」と中国語の“一下”が「相手に依頼する動作を短く少なめな形、言わば「軽減化」をした形で提示することで、こちらの控え目な要求の姿勢を示し、これによってより円滑な依頼行為の遂行を促す働きを担っている」と述べている。また、岡本・斉藤（2004）は、「ちょっと」が依頼や、希求、指示行為への負担を減らす、断りを受けやすくするなど六つの用法を持ち、お互いのフェイスを守るコミュニケーション機能があると主張している。以下、日本語のヘッジ「ちょっと」がどのように中国語に翻訳されているかを見てみよう。

まず、ヘッジの「ちょっと」に対応する訳語がない字幕から見ていこう。

(12) は、プロジェクトの仲間に聞き手を誘おうと呼び止める場面である。原文の「ちょっと」は、相手の時間をそれほど奪わないというネガティブ・フェイスへの配慮を示して、聞き手の負担度を弱くしている。しかし、訳文にそうした配慮は見られない。

## (12) 会議後、陽子が直美に尋ねる (Ps&gt;Ph, D 大)

原文：「小田さん ちょっと時間ある？」

訳文：“小田小姐，有时间吗？”

（小田さん、時間ある？）

（『ナオミとカナコ』第2話 27:47）

(13) の「ちょっと」も量のヘッジとして機能しているが、訳文には、尊敬呼称の“您”が用いられているものの、ヘッジがなく、負担の軽減が含意されない。

## (13) 大道寺は花澤に依頼する (Ps&lt;Ph, D 中)

原文：A「お義父さん…」

B「呼ぶな。絶対に呼ぶな。言っておくが ダディーもだめだ。」

A「あの ちょっと聞いてください。」

訳文：“那个，请您听我说。”

（あの 聞いてください。）

（『お義父さんと呼ばせて』第3話 13:32）

(14) では、依頼の負担を緩和する「ちょっと」が訳文になく、FTAが原文より大きい。

## (14) 大道寺が恋人美蘭の祖父に (Ps&lt;Ph, D 中)

原文：「あの おじいちゃん ちょっと黙っててもらえますか。」

訳文：“那个，爷爷您能别说话了吗？”

(あの おじいちゃん 話さないでもらえますか。)

(『お義父さんと呼ばせて』第4話 24:33)

一方、訳出される例もしばしば見られる。

(15) の「ちょっと」は控え目な要求の姿勢を示しており、依頼の度合いが和らげられている。字幕では、「ちょっと」に対応する程度副詞の“一下”に訳出されて、原文と同じように、FTA を緩和している。

(15) 大道寺は美蘭の母に頼む (Ps<Ph, D 中)

原文：「あの すいません あの ちょっと トイレお借りできますか？」

訳文：“那个不好意思。请问能借用一下洗手间吗？”

(あの すみません。 ちょっとお手洗いお借りできますか？)

(『お義父さんと呼ばせて』第1話 33:52)

(16) では、量のヘッジが相手にそれほど時間をとらせないことを示唆しており、聞き手へのネガティブ・フェイスが配慮されている。訳文では、“有点(少し)”を使い、原文と同じように、FTA を緩和している。

(16) 陽子は達郎を誘う (Ps<Ph, D 中)

原文：「ちょっと聞きたいことがあるんだけど 軽く飲まない。」

訳文：“那个我有点事情想问你，出来喝两杯吗？”

(ちょっと聞きたいことがあるから、飲みに行きませんか)

(『ナオミとカナコ』第2話 18:53)

(17) の「ちょっと」も上と同様であるが、中国語では「動詞+“一”+動詞」という動詞の重ね型(動作の量が少なかったり、動作の時間が短かったりすることを表す文法形式)を用いて、行為の軽さを表現している。

(17) 取引先が理子に相談しようとする (Ps=Ph, D 大)

原文：「副店長 今度出る新刊の件で ちょっと打ち合わせが。」

訳文：“副店长 这次新出的刊物，我想跟您谈一谈。”

(副店長 今度出る新刊 あなたとちょっと打ち合わせしたいのです。)

(『戦う！書店ガール』第1話 11:13)

以上のように、日本語の量のヘッジ「ちょっと」は、訳出されない場合（30例）と、程度副詞（例えば、“一下”など）や動詞の重ね型（例えば、“谈一谈”“说说”など）で訳出される場合（51例）がある。ではその違いはどこにあるのか。文脈を詳細に検討すると、訳出の有無は FTA の値にあることが分かる。

下の表 2 を見ると、社会的な距離が大きくなると、つまり親疎関係が疎に傾くほど、「ちょっと」が訳されやすい。しかし、上下関係で見ると、話し手が聞き手よりも力が強いときの方が訳出される傾向がある。つまり、よく知らない相手だが、自分の方が下ではないときに用いられるということになる。

日本語ですべての場合で「ちょっと」が使用されていることを考えると、日本語は中国語に比べて FTA の値が大きくなりがちで、そのため、ヘッジによって FTA を緩和しようとする場面が増えるものと考えられる。逆に中国語は日本語より FTA の値が小さくなりがちで、特に話し手の方が下位で、親しければヘッジの出現頻度も下がると考えられる。

	D 大	D 中	D 小	合計
訳出される場合	5 (41.7%)	20 (37.0%)	5 (33.3%)	30
訳出されない場合	7 (58.3%)	34 (63.0%)	10 (66.7%)	51
合計	12 (100.0%)	54 (100.0%)	15 (100.0%)	81

	Ps>Ph	Ps=Ph	Ps<Ph	合計
訳出される場合	12 (41.4%)	9 (39.1%)	9 (31.0%)	30
訳出されない場合	17 (58.6%)	14 (60.9%)	20 (69.0%)	51
合計	29 (100.0%)	23 (100.0%)	29 (100.0%)	81

表 2 中国語字幕における「ちょっと」訳出の有無

日本語でも中国語でも、話し手と聞き手に距離がある場合、量のヘッジが現れやすいのは共通しているが、その傾向は中国語で特に顕著であることが分かる。

#### 4.2.2 「少し」「だけ」「ただ・単なる」「少々」「しばらく」など

そのほかの量のヘッジについても、対応する訳語がない字幕から見ていくことにする。

(18) は、客のネガティブ・フェイスに配慮して、ヘッジの「少し」と「だけ」を重ねることにより、負担を軽減して FTA を和らげている。訳文にはそのような量のヘッジは見当たらず、語気が強くなってしまっている。

(18) 書店のスタッフが並んでいる客たちに指示する (Ps<Ph, D 大)

原文：「ご通行の皆さんの邪魔にならないように もう少しだけ壁側 をお願いします。ありがとうございます。」

訳文：“为了不妨碍正常通行，请贴近墙壁排队，谢谢配合。”

(通行を邪魔しないよう、壁側に近づいて並んでください。ご協力ありがとうございます。)

(『戦う！書店ガール』第1話 39:28)

(19) は、ゲストに依頼をするシーンである。原文では負担軽減のヘッジ「だけ」が使われているが、訳文では、「一分」が少ないことが強調されておらず、FTA 緩和の度合いが低い。

(19) 理子はイベントのゲストに時間をもらうことを頼む (Ps<Ph, D 大)

原文：「一分だけ 私に時間をください。お願いします。」

訳文：“能给我一分钟吗？拜托您了”

(私に一分をくれますか？お願いします。)

(『戦う！書店ガール』第1話 43:07)

それに対して (20) は、息子が問題にぶつかっていることに気を付かない夫に対する台詞であるが、原文の「少しぐらい」が“稍微”で訳されており、両方も「その程度の」とか「そればかりの」といった軽く見る気持ちを表す。ここではむしろ「ぐらい」のある原文の方が FTA の度合いが強いと言える。

(20) 妻が花澤に愚痴をこぼす (Ps<Ph, D 小)

原文：「少しぐらい あの子が何を考えているか 気にかけてら どうですか？」

訳文：“你能不能稍微关心一下他的真实想法啊。”

(彼は本当に何を考えているか 少し関心を持つことができますか？)

(『お義父さんと呼ばせて』第5話 13:10)

(21) は、弟の失踪に疑念を抱いた姉が弟の上司に質問をしている場面である。話し手は数量を軽減する表現「一つ」およびヘッジの「だけ」を並べて、「質問は多くない」ことを示唆することで、依頼の FTA を軽減している。それに対して、訳文では、「一つ」と指示詞の“这”を組み合わせることで、質問の数量や範囲が制限されていることを表現しており、原文と同様の効果が得られる。

- (21) 陽子は弟の達郎の上司に尋ねる (Ps<Ph, D 大)

原文：「では 一つだけ教えてください。」

訳文：“那请您回答我这一个问题吧。”

(では この一つ質問を答えてください+ “吧”)

(『ナオミとカナコ』第6話 07:25)

(22) のヘッジ「少々」「稍」はどちらも負担が軽いことを示唆している。

- (22) 電話の相手に (Ps<Ph, D 大)

原文：「担当者に代わります。少々お待ちください。」

訳文：“我马上为你转接负责人呢 请您稍等。”

(すぐに担当者に代わります 少々お待ちください。)

(『家族ノカタチ』第1話 04:15)

(23) では、ヘッジの「ただ」と「だけ」が“说句话(一言)”および“只是(ただ、だけ)”で訳され、原文と字幕のどちらも同様に、FTA の度合いが弱められている。

- (23) 理子が昔の恋人に (Ps=Ph, D 大)

原文：「待って なんで逃げるの？ 私はただ話がしたいだけ。」

訳文：“为什么要跑？我只是想和你说句话。”

(なんで逃げるの？ 私は一つの話をしたいただけ。)

(『戦う！書店ガール』第2話 29:17)

(24) の「しばらく」が表す時間は決して短いとは言えないが、「ずっとではない」「一時的である」ということは含意されている。訳文では“一阵子”が使用され、原文と同じ意味を表している。

- (24) 千春が家族に尋ねる (Ps<Ph, D 小)

原文：「私しばらくこっちに戻ってきてもいいかな？」

訳文：“我能搬回来住一阵子吗？”

(私一時期に引っ越し戻ってこられますか？)

(『結婚しない』第10話 07:19)

以上見てきたように、字幕では行為を軽減することを示す程度副詞(例えば、“一下”“稍微”“只是”など)などに訳され、FTA を緩和する場合(30例)が多い。

「だけ」は訳出されない場合が多い（7例）が、共起している「一分」や「ひとつ」は訳されているので、必ずしも FTA が緩和されていないわけではない。

#### 4.3 様式の「行動指針に対する」ヘッジ

様式のヘッジとは、Grice (1967)の「曖昧であったり多義的であったりせず、明快であること」という様式の Maxim に向けられたヘッジであり、「こう申しては失礼ですが」などのように、自分の行為が FTA であることを認め、謝罪することによって、フェイスへの配慮とするストラテジーである。日本語の台詞では、「はっきりお聞きしますが」「差し出がましいようですが」など 11 例見つかった。そのうち、ネガティブ・フェイスに向けられるヘッジは 7 例であった。以下、日本語の台詞における見られる様式の「ヘッジが中国語の字幕においてどのように扱われているかについて考察する。

(25)では、話し手が聞き手のプライバシーについて尋ねる場面である。原文では、聞き手のプライバシーに踏み込むことを認め、ヘッジの「はっきりお聞きしますが」で FTA を予告することで、聞き手のネガティブ・フェイスへの配慮としている。訳文でも、ヘッジがそのまま訳出されている。

#### (25) 亜紀は理子に詰問する (Ps<Ph, D 大)

原文:「はっきりお聞きしますが理子さんは柴田さんと付き合っていたんですか？」

訳文:“我直截了当地问你吧, 理子姐和柴田先生交往过吗?”

(はっきりあなたに聞きます+“吧”、理子さんは柴田さんと付き合っていたんですか?)

(『戦う!書店ガール』第3話 09:16)

(26)でも、話し手がヘッジの「差し出がましいようですが」でプライバシーの侵害を予告することで、聞き手のネガティブ・フェイスに配慮している。訳文では、“多言(余計な言葉)”と、許しを求める表現“恕我”で訳出されている。

#### (26) 春子は客のことについて推量する (Ps<Ph, D 大)

原文:「あのう 差し出がましいようですが もしかして 花束を持つのが恥ずかしいとか？」

訳文:“那个恕我多言, 难道您是觉得拿着花不好意思吗?”

(あのう 余計な言葉をお許してください。もしかして 花束を持つのが恥ずかしいですか?)

(『結婚しない』第4話 14:42)

以上のように、様式のヘッジは、ほとんどそのまま中国語の字幕に訳出されている。

## 5. まとめ

本論文では、日本のドラマに見られた **NPS** に向けられるヘッジ表現と、その対応する中国語字幕を分析することによって、ヘッジの翻訳の特徴を考察した。以下、表とともにまとめる。

まず、**NPS** に向けられるヘッジはドラマでも頻繁に用いられ、特に量の「行動指針に対する」ヘッジの「ちょっと」を含む文が多い。

また、日本語のヘッジの翻訳には、語気を和らげる語気助詞（“吧”“呢”など）、動作の量が少なかったり、動作の時間が短かったりすることを表す動詞の重ね型や程度副詞（“一下”“一会儿”“谈一谈”）を使用するのが普通である。

日本語の **NPS** に向けられるヘッジを、「ちょっと」と「と思う」を除いて、ほとんど中国語に訳出されている。中国語の字幕では、ヘッジの訳出はデータベース全体の 6 割程度しかない。

さらに、訳出されなかったヘッジとしては、「と思う」と「ちょっと」が目立つ。これは相手のネガティブ・フェイスとポジティブ・フェイスの両方に対する **FTA** の場合や、**FTA** が大きい場合には、訳されることが少なくない。逆に言えば、そうでないときには訳出されないことが多いのである。ヘッジの出現回数が日本語よりも少ないということは、中国語は日本語よりも **FTA** を低めに計算することを示唆している。

本稿では、ポライトネスの観点に基づいて、ファンサブの中国語字幕に見られる特徴のごく一部を明らかにした。**NPS** に向けられるヘッジの翻訳特徴は、日本と中国社会における **FTA** の重さの計算の相違に従っていると考えられているが、この点は今後より明確に検証していきたい。

ヘッジ	表現	訳出数	非訳出数	合計 1	合計 2
質の「行動指針をする」ヘッジ	「と思う」	15	13	28	36
	「とか」	1	7	8	
量の「行動指針をする」ヘッジ	「ちょっと」	51	30	81	120
	「一つだけ」など	5	7	12	
	「単なる・ただ」	10	0	10	
	「少々」	4	0	4	
	「しばらく」	4	0	4	
様式の「行動指針をする」ヘッジ	「はっきりお聞き しますが」など	7	0	7	7
	合計	104	59	163	163
割合		63.80%	36.20%	100.00 %	100.00 %

表 3 中国語の字幕におけるヘッジの翻訳表現

.....

**【筆者紹介】**

袁 青 (エン セイ/YUAN Qing)。東北大学国際文化研究科国際文化交流専攻言語コミュニケーション論講座博士後期課程在学中。(イン) ポライトネスの視点を中心に、日本のドラマにおける中国語字幕の翻訳戦略研究に取り込んでいる。連絡先:yuanqing028@yahoo.co.jp

.....

**【註】**

1. DVD 版『ナオミとカナコ』(フジテレビジョン、2016、収録時間は会計 558 分)
2. DVD 版『お義父さんと呼ばせて』(関西テレビ放送、2016、収録時間は会計 423 分)
3. DVD 版『戦う! 書店ガール』(関西テレビ放送、2015、収録時間は会計 415 分)
4. DVD 版『結婚しない』(フジテレビジョン、2013、収録時間は会計 516 分)
5. DVD 版『家族ノカタチ』(TBS、2016、収録時間は会計 492 分)

**【参考文献】**

Brown, P and Levinson, S. (1987) *Politeness. Some Universals in Language Usage*, Cambridge: Cambridge University Press.

Grice, H. P. (1967). *Logic and conversation*. Unpublished MS, from the William James Lectures 1967.

岡本佐智子・斎藤シゲミ (2004) 「日本語副詞「ちょっと」における多義性と機能」

『北海道文教大学論集』 5:65-76.

木村英樹（1987）「依頼表現の日中対照」『日本語学』 10:58-66.

辻大介（1999）「「とか」弁のコミュニケーション心理」『第3回社会言語科学会研究大会予稿集』 19-24.

横田淳子（1998）「「～と思う」およびその引用節内の動詞の主体について」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 24:101-117.

劉曉傑（2011）「ぼかし表現「とか」についての考察」『相愛大学人文科学研究所年報』 5:48-35.

